

2020年度第1回人口問題協議会明石研究会

2020年度第1回人口問題協議会明石研究会は、2020年12月2日（水）、公益財団法人ジョイセフ（JOICFP）を事務局として、当研究会では初のオンライン会合で行われた。テーマは「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が人口に与える影響」であり、社人研からは林玲子副所長と筆者が報告を行った。報告プログラムは下記のとおりである。

1. 林玲子「COVID-19の人口動向に与える影響」
2. 小池司朗「COVID-19の国内移動に与える影響」
3. 阿藤誠（社人研名誉所長、人口問題協議会代表幹事）「COVID-19と高齢者：国際的動向」

最後に、明石康人口問題協議会会長により全体の総括と質疑応答が行われ、閉会した。

COVID-19が世界人口に及ぼしている影響はきわめて甚大であり、今後も多角的な観点から分析を継続させていく必要がある。（小池司朗 記）

ウメオ大学社会学部／人口・高齢化研究センター オンラインセミナー

2020年12月3日、スウェーデン・ウメオ大学社会学部及び同大学人口・高齢化研究センターからの依頼を受け、本研究所の福田節也・企画部第2室長によるオンラインセミナー講演が行われた。講演のタイトルは、“THE FUTURE OF UNPAID WORK: How would automation transform time spent on domestic and care work in the UK and Japan?”（「無償労働の未来：自動化は家事・ケア労働時間のどのように変えるか？ 日英比較より」）と題するものであり、近年発展が著しいAIやロボティックスの進展により、世帯における家事やケア労働がどのように変化していくのかについて、日英の生活時間調査を用いたシミュレーションに基づく報告が行われた。オンラインによる開催であったが、20名ほどの参加者を得て、活発な議論が行われた。なお、本講演は、筆者が共同研究者として関わっているプロジェクトである「AI等テクノロジーと世帯における無償労働の未来：日英比較から」（科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発センター（RISTEX）「人と情報のエコシステム」研究開発領域」研究補助金、研究代表者：永瀬伸子 お茶の水女子大学教授）における成果をベースとした。今回の報告では、非常にシンプルな仮定を置いた大雑把な結果を示したが、今後はプロジェクトの進展に伴い、より精緻な分析を行っていく予定である。AIや新たなテクノロジーが市場における労働のみならず、無償労働を含む我々の生活にどのような影響を与えていくのかは、21世紀における新しい研究テーマであり、人口・社会保障分野においても今後より重要性を増していくものと思われる。（福田節也 記）

日本人口学会2020年度中部地域部会・研究会

本部会・研究会は2020年12月5日（土）の午後に行われた。当初三重での開催が予定されていたが、コロナ禍の影響で名古屋での開催に変更されるも、最終的には対面が難しいことから（Google Meet使用による）リモートでのオンライン開催となった。大きな問題無く開催されたのも、中部地域部会の中核メンバーの方々の多大なご尽力によるところが大きい。